

# ゆうやけ第2子どもクラブ 放課後等デイサービスガイドライン評価結果分析

2025年1月22日

## 1. 集計結果

### ○回答数

- ・保護者による評価 13人（13人中）
- ・職員による評価 8人（8人中）

### ○実施期間

- ・2025年1月6日～17日

### ○評価の数値状況

- \*別紙を参照

## 2. 分析・討議

### ○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「指導員の配置人数は適切であるか」の項目に、「十分過ぎるくらい安心だ」という意見がある。「子ども10人に指導員2人」という、国の指導員配置基準では、子どもたちの実態に即さないため、財政運営は厳しくても、「10:6～7」の指導員配置をしている。そのことが、保護者からも評価されている。
- ・「子どもは活動を楽しみにしているか」の項目は、「はい」が12、「わからない」が1ある。「とても楽しみにしている」という意見もある。子どもの願いに探りながら、子どもと一緒に創り出していく活動が評価されている。活動が子どもにとってどんな意味があるかが保護者に十分に伝わっていないこともあるため、いっそうていねいに伝えていきたい。

### ○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、早わかりしようとせず、(どうしてなのか)と、自らに問い続けているか」の項目に、「この子はこういう子と決めつけて判断しないようにしている」という意見もある。子ども1人ひとりを理解することは簡単ではないため、決めつけなどの思い込みに陥らないように引き続き努めたい。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、傍観するのではなくて、働きかけて変化をつくりだし、理解しようとしているか」の項目は、「はい」が7、「わからない」が1ある。「言葉がけや、遊びの持ちかけで理解している」「積極的に働きかけるときと、見守るときの見極めが難しい」という意見もある。子どもは、様子を眺めているだけではわかりきらないため、働きかけて変化をつくり出しながら理解していくことを引き続き大事にしたい。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、独りよがりの判断をせず、ほかの職員に意見を聞くなどしているか」の項目に、「他の人の意見を聞くことは大事だと思う」「事例検討以外でも日頃から、子どもの様子について意見交換している」という意見もある。子ども1人ひとりを理解するには、自分の目だけでは不十分であるため、複数の

目で多面的に事実を確かめることを引き続き大事にしたい。

- ・「子どもの“問題行動”に出会うとき、その内側に、その子の本当の願いが隠されていると考えて、内面を探ろうとしているか」の項目は、「はい」が7、「わからない」が1ある。子どもの、問題にも見える行動の内側には、その子の本当の願いが、屈折した形で込められていることがある。この視点は重要であるため、事例検討などをつうじて、引き続き深めていきたい。
- ・「子どもの表面的な事がらを並べるのではなくて、働きかけて、肯定的な事実をつくりだし、それを意味づけようとしているか」の項目は、「はい」が6、「わからない」が2ある。子どもの、表面的な事柄を並べるだけでは、否定的な事柄ばかりになりがちになる。そうではなくて、子どもに働きかけて、肯定的な意味を見出すことを、事例検討などをつうじて、引き続き深めていきたい。
- ・「学校で頑張ってきたあとの活動という、生活の流れを意識して、子どもを理解しようとしているか」の項目に、「自由に楽しく過ごせるように接している」という意見がある。放課後の生活にふさわしいテンポで活動することを引き続き大事にしたい。
- ・「大人の目の育ちに応じてしか子どもは見えてこないという、自省的な意識をもって、子どもを理解しようとしているか」の項目は、「はい」が7、「わからない」が1ある。職員が子どもを見る目が育っていかないと、子どもはよりよく見えてこない。研修などをつうじて、職員の実践的な力量を引き続き高めていきたい。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」の項目は、「はい」が3、「わからない」が1、「いいえ」が4ある。「なかなか余裕がない」という意見もある。コロナの心配が低くなってきたため、外部の学習会などへの参加をいっそう促していきたい。
- ・「保護者の言葉の内側に込められた思いや願いを汲み取ろうとして、懇切に対応しているか」の項目は、「はい」が7、「わからない」が1ある。保護者の言葉の表面だけを聞くのではなくて、そこに込められた思いを汲み取ることを、引き続き留意していきたい。

### 3. 改善目標

#### ○保護者による評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・財政運営は厳しいが、子どもの豊かな育ちを実現するために必要な人数の指導員を確保できるように、引き続き努めたい。
- ・子どもの願いに寄り添いながら、子どもにとって楽しい活動を引き続き創造していきたい。そのとき、その意味が保護者にも伝わるように、ていねいな説明に努めたい。

#### ○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子ども1人ひとりを深く理解することが、実践の要と言えよう。「早わかりしない」「具体的に働きかけてみる」「ほかの職員に聞いてみる」「問題に見える行動の内側に込められた意味を探る」「表面的な事柄の羅列に終わらない」「生活に流れを意識する」「職員自身の成長に努める」などの観点を引き続き大事にして、研修や事例検討を進

めていきたい。

- ・外部の学習会へについては、育児など家庭の事情から難しい場合も多いが、コロナが収まってきたため、参加をいっそう促していきたい。
- ・保護者の言葉に込められた思いを汲み取ることを引き続き大事にして、保護者との関わり合いを豊かにしていきたい。

#### 4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2025年1月31日より）

○ホームページへの掲載（2025年1月31日より）